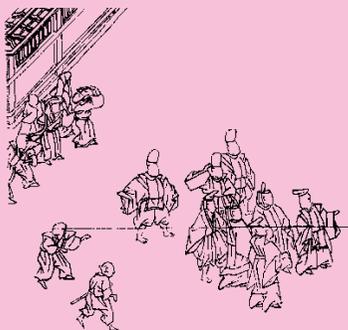


# 鴨東通信

おうとうつうしん



ていーたいむ

「文化の鏡」として、鉄道を見直す。宇田 正

特別寄稿

「競技かるた界」の最近の動き 津久井勤

史料探訪⑦

伊藤若冲と『相国寺史料』 村田隆志

■私のノートから■

公家文化と庶民文化 森田登代子



# 冬

◎新刊案内◎

鉄道日本文化史考

日中戦争から世界戦争へ

オランダにおける蘭学医書の形成

東大医学部初代総理池田謙齋 下巻

禮園小石先生叢話

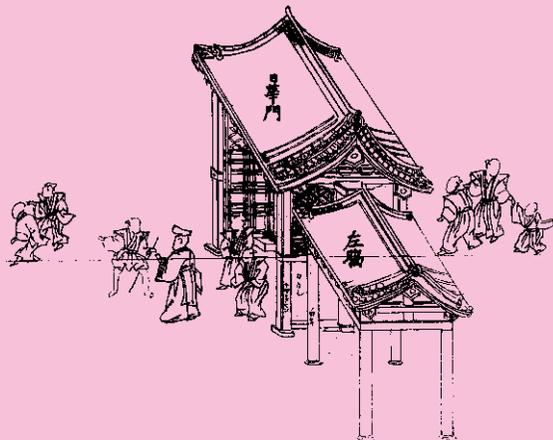
撰関時代文化史研究

瀬戸内海地域社会と織田権力

近世社会と百姓成立

尾陽 第3号

アートに学ぶ



# 「文化の鏡」として、鉄道を見直す。

宇田 正(追手門学院大学名誉教授)

## ■根っからの鉄道好き■

◆鉄道に興味を持たれたきっかけは何でしょうか？

子どもの頃、家が西大阪の築港の近くにありました。場所がら、しょっちゅう貨物列車が通るので。昼間はにぎやかだから聞こえませんが、夜になると貨物列車のカタンコトンという音が枕に響いてきました。これがいわば僕の子守唄でしたね。

少し大きくなってからも、私たちの時代の乗り物は鉄道でした。車はほとんどなかった。タクシーなんて年に2～3回乗るだけでした。だいたい市電と地下鉄と阪急や南海など郊外電車、それと自動車でした。鉄道はいつでも乗っていますので、親しみもあつたんでしょうね。

大学生になって、今の近畿日本ツーリストの前身の日本ツーリストで添乗員のアルバイトをしました。大阪の遺族会が東京へ団体参拝旅行に行くのですが、夜行列車で東京へ行き、宮城を清掃して靖国神社に参拝し、日光を見物して帰ってくる。その団体をまとめて連れて行く仕事です。おもしろかったですね。旅行や鉄道が好きだからそういうことができたのでしょうか。箱根・江ノ島・鎌倉などには添乗で毎週行きました。そんなことをやっているから学校へ行く時間がなくて留年したのですが(笑)。

◆鉄道がとにかく好きなのはですね。

ヨーロッパでは何回も、オーストラリアでは4回と、海外でもよく乗りました。日本でも、北海道は稚内までは行っていませんが、それ以外の鉄道にはほぼ乗りましたね。

一番好きな鉄道路線は、三河の豊橋と信州の辰野を結ぶ飯田線ですね。あれはピカーです。飯田線はもともと豊川鉄道・鳳来寺鉄道・三信鉄道・伊那電気鉄道という4つの私鉄が1本につながった電化路線で戦争末期に国有化されました。駅がものすごく多く、山の中の、どこに家があるんかいなというところに駅があるのです。全体の半分がトンネルと鉄橋という感じです。四季の変化が豊かでね。若葉のころもいいし紅葉ももちろんいい。僕は新婚旅行でも乗りました。峡谷美と南・中央アルプスの眺めがすばらしい。全長195.8kmあります。鈍行で行くと6時間も楽しい旅ができるんですよ。

## ■鉄道が日本人の内面を変えた■

◆先生の研究は、鉄道を経済史や経営史からシフトして、文化史として見直すということですね。

経済史が専門だからもちろん経済・経営面の研究もやっていますよ。ただ、鉄道については、経済・経営の面では研究している人が多いですが、文化として見る人は案外少ないのです。鉄道を「文化の鏡」としてとらえ直す必要があります。僕も根っからの鉄道マニアでもあるのだけでも、そういう気持と同時に、学問的なレベルで鉄道を文化と結びつけて研究したいという気持があるのです。

現在は車や航空機に押されて鉄道がダメになったと言われますけれど、もういっぺん見直される時代が来ると思うのです。たんに速いとか便利がいいからという「文明の利器」としてではなくて、文化の面で鉄道が人間の内面や環境や人間関係などにいろんな作用を及ぼしてきた「心の旅路」をかえりみて、そこから学ぶべきことがあると思います。

鉄道は日本人の内面を変えました。それが本書のテーマです。地域的な文化の交流を促進しましたし、時間感覚・地理観も変えましたね。鉄でできているという重量感とダイナミックなスピード、これはまさに近代のシンボルです。汽車というのは遠くで見ているとそうでもないが、実際にそばに行くと見ると大きいですよ。鉄の塊りが持っている力に圧倒されますね。鉄が近代文明を支えてきたんだということが実感できます。近代工業化文明の基礎に鉄というマテリアルがあって、鉄は重くて力強いということを近代人の心に植えつけたと思いますね。

鉄道自体がよく人間の生き方にたとえられますね。驚進すると軌道を踏んでいくなかに脱線するか、鉄道に関する言葉が人間の行動に関するメタファーになっているわけです。SLの機関車を長く勤めた人たちはみな、SLは人間と同じだと言うんですね。かわいがると動いてくれるが、そうでないと動かない。まさに生き物だというんですね。

鉄道は固いだけではありません。鉄道によって織物産業も発展してきました。たとえば住江織物という会社は、客車の座席のクロスをつくって大いに発展したのです。そういうやわらかいものにも鉄道は

関係しているんですね。

一方で、鉄道の線路が伸びていくにつれて、レールに敷く枕木の需要がとめどなく増加していきました。江戸時代までの日本の山は、木に覆われて豊かでしたが、明治以後、枕木用に乱伐されて木がなくなっていったのです。鉄道が自然を破壊したのですよ。そういう負の側面も見落してはなりません。

### ■さまざまな鉄道文化■

◆近代日本の文学のなかには鉄道に関する描写がたくさんありますね。

たとえば、徳富蘆花の『不如帰』。山科駅で浪子さんが武男の乗っている車両とすれちがってハンカチを振る。浪子は父親と一緒に新橋へ向かう。反対の西に行く列車に武男が乗っているのですね。他にも志賀直哉の「網走まで」、芥川龍之介の「蜜柑」など、鉄道に乗って便利だとか速いというのは二の次で、鉄道に絡む人間模様が結構ある。今の鉄道は窓も開かないし速すぎて人間的なゆとりがありません。

洋の東西を問わず、鉄道は近代人の人生の局面のいろいろな場面に関わっています。映画も多いですね。イタリア映画の『鉄道員』、ピエトロ・ジェルミ監督・主演。いい映画です。イアン・フレミングの小説を映画化した007シリーズの『ロシアより愛をこめて』にはオリент急行がスリリングな舞台となります。鉄道は文芸や芸術の世界でも、くめど尽きせぬものがあります。

◆鉄道に関する資料をたくさん収集されておられるとか。

駅でくれるパンフレット類から時刻表・古切符など、家には山のごとくあります。昭和戦前の旅行のちらしは、今古本屋へ行ったら一枚1,000円～2,000円ほどで売っていますよ。僕が居なくなってもこれでなんとか子孫はやっていけるかと思って集めています（笑）。

旅をしても、鉄道に関するあらゆるものを持って帰るとというのが僕の主義です。碓氷峠のそば屋でそばを食べた後の鉢を持って帰ったり、駅弁の包紙や箸袋なども。駅弁のお茶の瀬戸物でつくった土瓶まで、一切適切です。

海外へ行っても鉄道グッズをいろいろ集めました。それと、ヨーロッパでは、降りるときに切符を渡さないのです。切符を買って乗ったら車掌がパンチをいれる、それで終わりです。後はどうなっても構わないのです。だからヨーロッパの駅の出口には乗客が捨てた切符が足下に散らかっています。それも拾って持って帰りました。そのなかにおもしろいものがあるんです。日本では乗車券は権利証で、それを持っていないと乗れないし、駅から出してくれない。ヨーロッパでは領収証にすぎないのです。これも文化の違いの一面でしょうね。



### ■公共交通としての可能性■

◆鉄道文化を大切にしている国はどこでしょうか？

どこの国も大切にしていますが、日本はダメです。日本は鉄道の導入にあたって、出来上がったものをイギリスから買いましたね。いかにそれを速く走らせるかということしか考えないわけです。産みの苦しみを知らないで、使うことしか知らないのです。だから、車の方が便利だとすると簡単に車に乗り換えてしまいます。つくった苦勞を思えば捨てられませんよね。試行錯誤しながら実用化した苦勞を知らないものだから、日本人の多くは鉄道にはそういう愛着がないのでしょうかね。

イギリスでは民間団体が、いたるところで古い鉄道を保存しています。地域の人が金を出しあってヴォランティアで鉄道を保守し、運転サービスを実現している保存鉄道が、全国で百路線以上あるのです。そんなケースは日本国内にはどこにもありませんよね。レールなんか取り払ってしまって道路にしるとかね。日本の近代化が持っている大きな欠陥だと思います。効率一点張りの近代化だから鉄道と文化としての根が浅いのですね。

市電も高度成長期にぶっこわしてしまいました。大阪は明治36年に市電が開通し、昭和44年まで走っていました。僕も小さい頃から市電で遠出していましたよ。ガソリンは軍需物資だから民間の車にはまわされず、バスもありませんでした。京都も市電がなくなりましたが、なぜなくしたのか残念です。京の街は今は車で埋まっていますね。ただ、広島・長崎など、全国にはまだ市電が活躍している都市があります。やり方次第で車と共存できると思います。

現在の鉄道政策や鉄道のあり方については、歴史の中でいろいろ教えられるものがあるはずですよ。効率一点張りとか営利一点張りではいつかは破綻しますよね。利用する側もそうだと思うのです。こだまがあって、ひかりがあって、のぞみがあって、10分そこそこ速くなったってしょうがないと思いますが、みんなのぞみで行きたがりますね。なんでそんなに急ぐのかと思いますけどね。いずれにしても、公共交通としての鉄道はまだまだ存在価値はあると思います。日本人が全員車を持っているわけではないのですから。（2006.12.26 於：思文閣出版）

宇田 正著

# 鉄道日本文化史考

最新刊

日本の近代化のなかで陸蒸気＝鉄道がもたらしたものは、はかり知れない。本書では「文化の鏡」としての鉄道をとりあげ、知識人の体験や一般人の認識から民俗・観光（巡礼）・教育との関わりを通して、鉄道が日本人の内的形成に果たした文化的役割を明らかにする。

▶A5判・350頁／定価5,775円

ISBN978-4-7842-1336-8

## 内容目次

### 序章 「文化の鏡」としての鉄道

鉄道文化と近代社会

### I章 鉄道初体験と近代への文化的覚醒

明治初期わが国一知識人による鉄道体験

維新政府官僚安場保和の鉄道初体験と日本鉄道会社の設立

### II章 日本人一般の鉄道認識の形成

「陸蒸気」呼称考

明治中期西播地方の鉄道民俗

### III章 鉄道の発達と伝統文化的契機

本邦鉄道発達の文化的考察

わが国の鉄道史と「観光」の理念

本邦鉄道事業の成立・発達史に見る伝統文化的構造

### IV章 国民教育と鉄道の役割

わが国近代教育の進展をささえた鉄道の文化的役割

近代日本小学校国語教育における「鉄道」教材化の諸相

うだ・ただし・・・昭和7（1932）年大阪生。大阪大学（文学部・法学部）卒。同大学経済学部助手を経て追手門学院大学経済学部教授を歴任。平成18（2006）年定年退職。経済学博士（大阪大学）。追手門学院大学名誉教授。

### V章 地域社会と鉄道・駅

日本の駅

「聖」から「俗」へ

終点の無い鉄道線路

長谷川如是閑の大坂郊外文化論

戦前日本の田園都市開発と電鉄企業



『小学国語読本 卷二』（昭和8年）

## 日本近代都市史研究

原田敬一著

ありうべき都市像”を求める一方法として近代都市をめぐる歴史的考察にとりこんできた過程で生まれた成果をまとめた書。【内容】近代都市の成立と構造／近代大阪の史的究明

▶A5判・360頁／定価8,190円

ISBN4-7842-0953-0

## 近代地方政治と水利土木

服部 敬著

淀川・安威川・神崎川の水利構造の変遷と分析、沿岸住民の治水運動と中央・地方議会と政党の対応、近代化の意味と中央集権的近代国家の性格を地域史の視座から問う。

▶A5判・400頁／定価6,930円

ISBN4-7842-0873-9

## 近代日本公園史の研究

丸山 宏著

近代欧米都市起源の公園が、いかに近代化の装置として導入され、衛生問題、都市問題、記念事業、経済振興策など、さまざまな問題を孕みながら受容されてきたかを究明。

▶A5判・400頁／定価8,820円

ISBN4-7842-0865-8

## 都道府県庁舎

石田潤一郎

一次史料をもとに都道府県庁舎の歴史的展開を、地方行政制度史・地域史の中で位置づけるとともに、図版史料によってその平面計画及び立面意匠の具体的な把握も試みた。収録図版200余点。

▶A5判・440頁／定価9,030円

ISBN4-7842-0775-9

## 図説万国博覧会史 1851-1942

吉田光邦編

万国博覧会は19世紀に花開いた新しい情報環境の文明の形式であり、文明のあらゆる形態の巨大な集積体であった。図版約300点を収録。カラー口絵12点。

▶A4判変型・224頁／定価7,875円 ISBN4-7842-0393-1

## 万国博覧会の研究

吉田光邦編

19世紀、体制を整備しつつあった国家・近代的な企業・国民という意識に支えられた大衆社会を基盤にスタートした新しい情報メディアの場、博覧会の諸相を明かす学際的研究。

▶A5判・368頁／定価6,825円

ISBN4-7842-0414-8

## 雑誌『大大阪』CD-ROM 大正14年～昭和19年

大阪都市協会 企画発行

大正14年12月号から昭和19年1月号号まで全巻約33,000ページの膨大な文章・図版・広告などのすべてをCD-ROM 2枚に完全収録。都市制度・地方行政制度・都市計画・公営事業・産業経済・公害・社会福祉・教育・芸術・社会風俗・地誌など多方面にわたる内容。題名・著者名・発行年月・分野・キーワードの5検索が可能。

▶Windows専用／定価99,750円【直販扱い】



# 永井和著 日中戦争から世界戦争へ 最新刊

華北に利権を求める日本。イギリス・アメリカ・ソ連を相手にしてどのような対応をしたのか。日本が世界戦争への道を進んでゆく姿を明らかにする一書。

## 序章 東アジア20世紀史の中の日本——帝国・敗戦国・経済大国——

東アジア史の近代と現代／東アジア史の20世紀／日本帝国の形成と植民地主義／日中戦争から世界戦争へ／敗戦・占領と日米同盟

## 第1章 日本陸軍の華北占領地統治計画について

はじめに／『統治計画書』の位置／『統治計画書』の中心部分／占領地域の警備体制／占領地統治機関／占領後の経済政策／占領地の交通支配／その他／おわりに／付・支那駐屯軍参謀起案「宣伝計画（仮定）」（1937年7月8日）について

## 第2章 日中戦争と日英対立——日本の華北占領地支配と天津英仏租界——

はじめに／華北の「租界問題」／華北の「租界問題」／北支那方面軍の対租界工作／天津英仏租界封鎖／陸軍中央部の「極東ミュンヘン」構想／日英東京会談／おわりに

## 第3章 1939年の排英運動

はじめに／日中戦争下右翼の戦争観・対外認識／日中戦争下最初の反英運動／「中間期」の運動／1939年夏の反英運動／おわりに

## 第4章 日中戦争と帝国議會

日中戦争の全面化と「戦時体制」の成立／第1次近衛内閣と第71帝国議會／最初の戦時議會・第72議會／国家総動員法案と第73議會／東亜新秩序と第74議會／斎藤隆夫の反軍演説と第75議會

## 第5章 日中戦争と陸軍慰安所の創設

はじめに／警察資料について／陸軍慰安所の創設／日本国内における慰安婦募集活動／地方警察の反応と内務省の対策／おわりに／附・軍の後方施設としての軍慰安所

## 補論 江口圭一論——『十五年戦争小史』によせて——

▶A5判・516頁／定価7,980円

ながい・かず…1951年大阪市生まれ。立命館大学文学部教授を経て、現在京都大学文学研究科教授。



ISBN978-4-7842-1334-4

## 近代日本の軍部と政治

永井和著

日本近代政治史の気鋭が、「戦前の内閣」をとりあげ「軍人の内閣」というフィルターを通して内閣史に新たな光をあてる。[内容] 軍人と内閣 視角と定義／軍人首相内閣論／軍人閣僚と戦前内閣／現役将校の官界進出／政軍関係理論に関する一考察 内閣官制と帷幄上奏 初期内閣と帷幄上奏勅令／内閣官制の制定と帷幄上奏 付・方法についての自註

▶A5判・450頁／定価9,030円 ISBN4-7842-0770-8

## 貴族院と立憲政治

内藤一成著

明治から大正前期にかけての貴族院を主導し「官僚系」「山県系」などといわれた院内会派、幸倶楽部、および子爵議員を中心とした最大会派、研究会の動向を中心に分析し、政党研究にくらべ著しく立ち遅れている貴族院に焦点をあわせた研究。

▶A5判・438頁／定価7,980円 ISBN4-7842-1278-7

## 明治維新期の政治文化

佐々木克編

政治史、文化史、思想史、精神史を融合した“政治文化”という視点から、明治維新期の諸問題にアプローチを試みた一書。京都大学人文科学研究所の共同研究を11篇を収録。

▶A5判・390頁／定価5,670円 ISBN4-7842-1262-0

## 政教社の研究

中野目徹著

「国粹主義」を主唱して明治の思想界をリードした政教社の存在形態を三宅雪嶺・志賀重昂・内藤湖南らの人物像と組織及び機関誌の全貌を検証。

▶A5判・340頁／定価7,350円 ISBN4-7842-0771-6

## 稽微録 京都守護職時代の会津藩史料

家近良樹編 大阪経済大学日本経済史研究所史料叢書3 家老築瀬三左衛門真粹に仕えていた武藤左源太が藩庁からの布達・布令や巷説を写したもので、幕末期会津藩の政治動向や藩が直面した財政上の危機的状況を生々しく伝え、従来の史料を補う貴重な文献。巻末には註釈・解説・索引を付す。

▶A5判・280頁／定価6,825円 ISBN4-7842-0994-8

## 宮津市立前尾記念文庫所蔵 元勲・近代諸家書簡集成

佛敎大学近代書簡研究会編

伊藤博文・桂太郎・原敬・山縣有朋ら政界人をはじめ明治・大正期に各界で活躍した139人の書簡225通を収録。

▶A5判・630頁／定価5,250円 ISBN4-7842-1179-9

## 近代日本と幕末外交文書編纂の研究

田中正弘著

外交文書の編纂事情、編纂した外交文書集の内容構成、諸人の性格、また徳川幕府外国方の編纂構想から明治初期外務省の編集組織の確立過程、太政官における幕末外交文書編纂の開始事情とその後の推移など、広範な第一次史料を駆使してその全容をはじめ具体的に考察。

▶A5判・480頁／定価10,290円 ISBN4-7842-0958-1

## 明治期外国人叙勲史料集成

梅溪昇編

[全6巻]

本書は国立公文書館所蔵の「公文録」(8～18年)「官吏進退」(19～25年)「叙勲」(26～45年)から、外国人叙勲に関する史料を選択・集成したもの。史料には叙勲理由・経歴などが記され、政治・外交・経済・産業・社会・文化など多方面にわたる明治期の国際環境を知ることができる。

▶B5判・総3120頁／定価157,500円 ISBN4-7842-0666-3

# ●私のノートから 公家文化と庶民文化

森田登代子

若くはない。四〇代を過ぎて重度障害の娘に手がからなくなつて、修士課程の時教えを乞うた教授が定年後再就職なさつた女子大の門を叩いた。その頃から今度は同居している祖父母や舅姑に時間を取られるようになった。その辺りのことは『はじめてダンス！』（小学館、二〇〇六年）に書いた。『明日へひょうひょう』（向陽書房、二〇〇四年）が朝日新聞書評欄に載つたことがきっかけだった。

そんなハードな日常生活に右往左往しているから、文字や書物の中に埋もれる生活は私の活力の源となつた。研究のきっかけもいたつて主婦的視点だ。粉本だが宮内庁蔵「明正天皇御即位行幸屏風」を見ている時、不思議な光景に出くわした。多くの庶民が即位式を見学している。見物衆の中には授乳中の女性や、重箱や酒器を携える女性、将又、即位式に用いられる調度品の幢を揺らす子供もいる。驚きだった。天皇即位式は厳粛に行われ、一般庶民は拝見できないと素人風の考えしか持っていなかったから。『京都町触集成』を調べてもつと驚いた。禁裏内で即位式を観覧するために、男性一〇〇人女性二〇〇人に切手が用意されたという触が何度も布告され、切手配布が決まるまでの人間くさい話も収められていた。

庶民は物見高い。東山天皇即位式の時、雲霞の如く庶民が見物にやつてきたと近衛基熙の日記にある。御代始めの能では庶民が殺到し圧死したとも。庶民の好奇心たるや、凄い。

いろいろ史料にあたる、そうするとつぎつぎ現れる。「求めよ、さらば与えられん」とはよく言ったものだ。偶然にスペンサーコレクションにも出品されていた絵師岸駒・岸国章父子「御讓位図」の下絵をみつけた。躊躇する値段だったが、「買いなさい！」という国際日本文化研究センター笠谷和比古教授の鶴の一声で手に入れた。まだ目録にはいる前に首尾良く。よくまあ私のようなものと出会いがあったものだ。東京大学史料編纂所蔵即位図と瓜二つ。でも私の「御讓位図」は袋入りで、劔璽渡御も新嘗祭の下絵も含まれていた。三行半研究の高木侑専修大学教授は「史料は本当に欲しいと思っている人のところに来るもんだよ」と。拙稿論文「近世民衆、天皇即位の礼拝見」（公家と武家Ⅲ 王権と儀礼の比較文明史的考察、二〇〇六年）におおいに役だった。

「ところでどれにプライオリティがあるの？」と尋ねられた。母親の視点からは「子を産む身体」「子を産まない身体」と記す上半身のヌードが描かれた近世

古い本——大雑書のたぐいに、それに江戸時代なら間違ひなく私がそうなつた出産時亡くなる産女という人面鳥身にも関心がある。ともに「大雑書研究序説」「人面鳥身」と論文にしたが、まだまだ研究が足りない。江戸時代後期にはおびただしい数の大雑書が出版されたから、まだまだ目を通さねばならない。どちらも天皇即位と全く関連性がないと思われがちだが、そうともいえない。大雑書は『捨芥抄』などの公家必携の書物もルーツの一つにあげられるし、産女の習俗、流れ灌頂の濫觴が室町時代の公家日記に記される（息子が強盗に刺され重傷、日野富子も見舞いに来たが死去。父親が流れ灌頂を頼む）。

儀礼を最重視する公家文化は、近世以降、洗練と秩序を求めた庶民の文化へと薄められながらも浸透していく。だから庶民の文化を見ようとすれば公家文化の考察が必要である。天皇即位に関する史料を調べながら、近世の大雑書類や産女に関する史料にも連関を持たせながら研究したいと思う。



もりた・とよこ

武庫川女子大学大学院博士後期課程修了。博士（家政学）。大阪樟蔭女子大学非常勤講師。『近世商家の儀礼と贈答』（岩田書院、2001年）等。

## オランダにおける 蘭学医書の形成

3月刊

石田純郎（新見公立短期大学教授）著

江戸期にオランダを経由して受容した蘭学の原点『解体新書』。その原作者、蘭訳者の履歴や職歴、著書を具体的に検討することにより、日本の受容した蘭学の性格を明らかにする。また、他の代表的な受容蘭学医書についても精査することにより、受容した蘭学のヨーロッパにおける学統を明かし、その背景となった1800年頃までヨーロッパに存在した古いタイプの職人としての外科医の様子を描出する。

…………… 目次 ……………

- 1 日本における蘭医学受容の歴史
- 2 『解体新書』と原著者クルムス、翻訳者デイクテン
- 3 『瘍医新書』のドイツ人原著者とオランダ人翻訳者について
- 4 『西説内科撰要』と原著者ゴルテルについて
- 5 ライデンとオランダの外科医ギルド（16～18世紀）の歴史

典拠文献および註／索引

▶A5判・320頁／定価7,140円 ISBN978-4-7842-1338-2

## 文学に見る痘瘡

川村純一著

古来、人々は痘瘡（天然痘）と戦い、多くの犠牲を払ってきた。その一方で、痘瘡神が祀られ、多くの民俗行事が発達するなど、痘瘡と馴れ親しんできたともいえる。平安朝から昭和まで、46の文学作品を通じて、民衆の痘瘡に対する疾病概念・医療事情を明らかにする。

▶A5判・290頁／定価5,250円 ISBN4-7842-1323-6

## 病いの克服 日本痘瘡史

川村純一著

古代より人類を苦しめてきた痘瘡（天然痘）は、1976年ジェンナーの牛痘種痘法を経て、1980年にWHOによりその根絶が宣言された。膨大な史料からその歴史を描き出す。

▶A5判・400頁／定価4,935円 ISBN4-7842-1002-4

## 櫻園小石先生叢話 複製と解説

正橋剛二編

最新刊

京都 究理堂を整備発展させた蘭医 小石元瑞（1784～1849）の医業は延べ患者数一万人を越え、生涯の入門者は千人にも達した。本書は究理堂で元瑞の傍ら近くにいた門人が、師の言説を克明に記録したもので、江戸末期の漢蘭折衷医の考え方などを知る上で貴重な新出資料。全文復刻をカラーにて掲載し、詳細な解説を付す。

▶A5判・124頁／定価4,200円 ISBN4-7842-1330-9

## 蘭学の背景

石田純郎著

1609年平戸のオランダ商館開設以来流入し、江戸中期以降興隆した蘭学、殊に蘭医学のルーツを、ライデン大学など現地に直接足をのぼして探り、蘭学史に新たな光をあてる。オランダ人医師学者4名を含む6人の共同研究。

▶A5判・360頁／定価3,990円 ISBN4-7842-0512-8

## 緒方洪庵の蘭学

石田純郎編著

『解体新書』以後の洪庵に代表される日本の蘭医学……蘭学者および彼らが学んだ原典とその著者たちのプロソポグラフィ（集団履歴調査法）的研究を通して日本医学の本質を明かす。

▶A5判・366頁／定価5,040円 ISBN4-7842-0751-1

## 在村蘭学の研究

青木歳幸著

柳信濃をフィールドにし、在村蘭学が医師による医療の拡大、医師の組織化、医療の近代化等の医療をめぐる歴史的变化や江戸時代の地域社会、とくに庶民生活とどう関わっていたかを明らかにする。

▶A5判・460頁／定価9,030円 ISBN4-7842-0963-8

## 東大医学部初代総理池田謙斎

池田文書の研究

[全2巻]

池田文書研究会編 上巻：好評発売中 下巻：3月刊

池田文書とは、東京大学医学部初代総理、宮内省侍医局長などを勤め、我が国最初の医学博士の称号を受けた池田謙斎の子孫、池田允彦家に保存されていた約4000通の文書類をいう。本書は、東京大学中樞部・陸軍軍医部・宮内省侍医として関係のあった各宮家、同僚侍医、また患者としての華族や高級官僚などによる謙斎宛書簡を上・下2分冊で収録。医学史の分野のみならず政治史や宮廷史に寄与する資料である。下巻には、参考文献、人名索引、目録を収録したCDを付す。

…………… 目次 ……………

上巻

- 1 池田多仲宛書簡／2 池田謙斎宛書簡

下巻 ※池田謙斎宛書簡を発行人ごとに分類

- 1 医家・医療関係者／2 官僚・貴顕／3 親戚／4 その他

▶上巻 A5判・350頁／定価7,140円 ISBN4-7842-1284-1

▶下巻 A5判・390頁／定価8,190円

ISBN978-4-7842-1337-5



タイ東北部コンケン大学でのかるた風景：  
クルンテープかるた会の指導による  
(提供者：コンケン大学坪根由香里さん)

ここを利用したいろんなイベントが今後頻繁に行われることを期待する。開館よりほぼ一年が経過して、早速博物館としての認定を受けられたと伺っている。また、これと平行して近い内に嵯峨野周辺に百人一首歌碑が建立される運びである。

ところで、全日協も二〇〇六年は法人化してから丁度十年になる。ともかく、法人化によってかるたの好きな仲間集まりから、小倉百人一首を文化としての普及も計るために調査研究部が設けられ、筆者もその中で活動している。この十年という節目を迎えて、さらなる協会の発展に向けてのスタートになったと思っている。課題として、国内の普及拡大はもちろんのこと国外での活動も重要な課題であり、タイやカナダなどの外国に在住のかるたマンが頑張つて地域との交流を図りながらその推進に努力されている。一方、ロシアなどとの交流による活動も見られる。

他の活動として、(社)全国高等学校文化連盟(高文連)は毎年各県持ち回りで全国高等学校総合文化祭(全国高総文祭)を開いているが、この中にかかる専門部があり十三年目になる。その他にも、専門部による各県の活動として種々の大会が行われており、全日協とも協力して個人戦や団体戦も行われている。この中から、全日協主催のクイーンの誕生や女流選手権での優勝者を輩出している。高文祭が毎年各県持ち回りのため、開催県では普及のために努力され、その範囲が広がっていくと期待される。

また、一九九九年設立と歴史は浅いが、小学生を対象にTOS S 五色百人一首協会があり、急速に伸びている。各地での大会も当初は十二回程度であったものが、最近では数百人規模の大会が五十回以上にもなっている。練習は、授業時間の少しの合間を縫って二十一首一組の試合で、机上で行われている。小学生の精神集中にも役立つよう、益々の普及が期待されている。

更に、日本頭脳スポーツ協会があり、色々の頭脳スポーツの活動を各地で展開しているが、この中に競技かるたがあり、全日協も役員を派遣して活動を行っている。国際的な活動もあり、大きな広がりを見せている。

一方、二〇〇五年は古今集成立から千百年、新古今集成立から八百年を記念しての催しが各地で行われ、同時に記念切手の発行などもみられた。これら一連の活動の中で、藤原定家によって撰歌された小倉百人一首が我が国の文化として益々盛会になることを今後も願うものである。

最後に、拙文を纏めるに当たり、最近の情報をお伺いして纏めさせて頂いており、関係の皆様には深謝致します。

(東海大学、(社)全日本かるた協会調査研究部)

## 百人一首万華鏡

白幡洋三郎編

和歌・文芸の領域はもちろん、日本人の生活全般にわたって深い関わりをもつ百人一首を、歌の解釈はもとより、歴史、選び方、カルタ、翻訳など、さまざまな角度から紹介し、その文明的広がりをさぐる。カラー口絵(16頁)。

### 【内容目次】

- 百人一首の世界——その文化的広がり(吉海直人)
- 藤原清輔「ながらへば」の歌の解釈をめぐって——衰退史観・尚古思想(錦 仁)
- 恋歌の消滅——百人一首の近代的特徴(岩井茂樹)
- 女子用往来と百人一首(小泉吉永)
- 歌留多になった小倉百人一首(江橋 崇)
- 競技かるたの歴史と今後の課題(津久井勲・大平修身)
- 料理と百人一首(原田信男)
- 選ぶ——中国古典詩文の場合(井波律子)
- 百人一首と宝塚歌劇——「庶民」の娯楽と「少女」歌劇のあいだ(白幡洋三郎)
- 英訳百人一首の世界(ニコラス・J・ティール)

▶B5判・178頁/定価2,520円 ISBN4-7842-1223-1



## 「競技かるた界」の最近の動き

津久井 勤

先に国際日本文化研究センターの白幡洋三郎教授のご提案で、「百人一首の世界」と題したシンポジウムが同センターで二〇〇三年冬に行われ、これが『百人一首万華鏡』として思文閣出版から二〇〇五年発行された。この中で、「競技かるたの歴史と今後の課題」を担当させて頂いた。それから、何年も経ってはいないが、「競技かるた界」ではこの短期間にいろんなことが見られ、その盛衰が伺えるので、その中から最近の動きを述べたいと思う。

まず、二〇〇四年は、『萬朝報』を発行していた黒岩涙香が東京かるた会を起こして大会を開いた年から丁度百年にあたり、(社)全日本かるた協会(全日協)ではこれを記念して各地で記念イベントが行われた。主なものは、涙香生誕地の高知でのイベント(四月二十四・二十五日)、滋賀での協会の総会時に併せた講演会(五月十五日)、東京でのイベント(六月二十六・二十七日)、隠岐でのイベント(七月三・四日)、熱海でのイベント(九月四・五日)、三重斎宮歴史博物館での女流選手権を兼ねたイベント(十月三十・三十一日)、などが行われた。これらのイベントでは講演会や展示が、更には記念大会などが全国的に繰り広げられた。

このような一連のイベントを通じて、小倉百人一首を撰歌された藤原定家につながる冷泉家をはじめとして、涙香の出身地である高知におけるゆかりの所はもとより、東京や高知にお住まいのお孫さんにも講演あるいはイベントに出席頂くばかりか、涙香研究者の皆様にもご協力頂ける機会が出来た。また、東京のイベントでは涙香コーナーを設け、更に「小倉百人一首」の展示を実施した。これらの企画には大学や個人の方も含めて資料展示にご協力頂いた。このように、記念イベントを通して沢山の方々にご協力を頂き、交流できたこと大変感謝している。

また、二〇〇六年は、京都商工会議所が主体となり、任天堂のバックアップの基に設立された(財)小倉百人一首文化財団によって、一月二十七日「小倉百人一首の殿堂・時雨殿」が開館した。殿堂の一階は主として小倉百人一首のゲームで楽しむようになっており、二階は畳の部屋で、人形による歌合わせの状況を再現している。また、関連資料の展示も見られる。この二階の和室で十一月三日(金)文化の日(全日協)と前記文化財団との共催により第三十八回全国競技かるた女流選手権が開催された。新装になった初めての大会であり、選手も観戦者も殿堂の感触を満悦出来たことと思われる。女流選手権は今まで各県持ち回りで開催されていたが、来年もここでの開催が予定されている。

## 茶道と恋の関係史

岩井茂樹著

「恋は茶道の精神に反する」とされた一谷谿潤一郎の随筆にある興味深い一節をきっかけに、恋歌と茶道の関係を茶書や茶会記に探る。茶会の掛物のほか、茶道具の銘に隠された「恋」を紹介し、なぜ恋歌が問題となり、また使われることもあったのかを明かす。

▶A5判・232頁/定価3,990円

ISBN4-7842-1313-9

## 月と西行

水野精一著

老精神科医のみた出世観  
月に託された西行の想いはなにか——世捨て人・西行の生涯と歌を通して、その遁世と出生観の謎を一精神科医がたどる異色作。  
[内容] 生い立ちと、その家族歴/侍賢門院璋子/幼少時から北面の武士時代/遁世・出家と洛外に住んだ時代/高野山時代/善通寺の時代/伊勢時代/入寂/考察

▶46判・216頁/定価2,625円

ISBN4-7842-0716-3

## 古今和歌集への道

久曾神昇著

国文学研究七十七年

古今集の研究史上、不滅の金字塔を打ち立てた博士の永年にわたる研究生生活を各分野にわたって回顧。近代日本学芸史に足跡を残した研究者との交友、昭和の国文学研究の動向や折々の貴重な証言も書き留められている。略年譜・著作目録・主要論文目録などを併載。

▶46判・236頁/定価1,995円 ISBN4-7842-1221-3

## 晶子と寛の思い出

与謝野光著

与謝野晶子没後50年に際し、明治35年生れの長男が、家庭における寛(鉄幹)と晶子、そして新詩社に集まった多彩な浪漫派歌人たちの思い出を語る。

▶46判・270頁/定価1,835円 ISBN4-7842-0668-X

# ❧ 撰関時代文化史研究 ❧

関口力著

【3月刊】

思文閣史学叢書

リアルタイムに日々の出来事が記される古記録・日記類をもとにして、撰関時代全盛期に生きた人物、および彼らをはぐくんできた社会について考察。政権を掌握した体制派、それに対する反体制派、そしてそうした官人群とは一線を画した非体制派の人物群という基本的な人間類型を示すことにより、あくまで人間が主人公である歴史の在り方について追究する。

▶ A5判・480頁／定価9,450円

ISBN978-4-7842-1344-3

第1章 撰関時代における貴族子弟の動向(1)——道長政権の陰に生きた人々——

藤原隆家／藤原道雅1／藤原道雅2／中関白家と熊野／藤原実資／藤原成房・源成信

第2章 撰関時代における貴族子弟の動向(2)——道長政権を積極的に支えた人々——

藤原齊信／藤原行成／源俊賢／藤原公任

第3章 撰関時代における王臣家子弟の動向

小一条院／輔仁親王／中御室覚行法親王／『中御室御灌頂記』／『中御室御記』逸文

第4章 撰関時代の社会と生活

『大鏡』の時代／『中右記』に記される貴族と日記／平安貴族の住居と生活／古記録にあらわれた下級官人の実態／上官考／稲荷祭と市塵商人／十世紀における伏見・稲荷素描

せきぐち・つとむ…1952年、京都市生まれ。現在京都女子大学非常勤講師。

## 御堂関白記全註釈

〔第2期全8巻〕

山中裕編

〔既刊〕

藤原道長の日記「御堂関白記」は平安時代を代表する一級史料。本全註釈は永年にわたる講読会（東京・京都）と夏の集中講座による成果を集成したもので、原文・読み下しと詳細な註によって構成されている。

長和4年 A5判・290頁／定価6,300円 ISBN4-7842-1158-6

寛弘3年 A5判・218頁／定価5,775円 ISBN4-7842-1214-0

寛弘7年 A5判・220頁／定価5,775円 ISBN4-7842-1260-4

寛弘4年 A5判・220頁／定価5,775円 ISBN4-7842-1302-3

## 源氏物語の史的研究

山中裕著

思文閣史学叢書

王朝文化・有職故実研究の第一人者が源氏物語を史的に読み解く。紫式部の生涯と後官／源氏物語と時代背景／源氏物語の内容と時代性／源氏物語の準拠と史実、の4篇と付篇からなり、特に第三・四篇は、撰関制・年中行事・準拠と史実などの面から論じた、著者の面目躍如たる一書

▶ A5判・470頁／定価9,660円

ISBN4-7842-0941-7

## 平安時代の古記録と貴族文化

山中裕著

思文閣史学叢書

古記録・儀式書・かなの日記・歴史物語等の根本史料を基に、撰関政治の本質および年中行事を主とする平安貴族文化の実態を説かんとする一書。第1篇では藤原師輔と源高明をとりあげ、第2篇では道長の政治を論じ、第3・4篇で、平安時代の有職故実を解明する。

▶ A5判・510頁／定価9,240円 ISBN4-7842-0857-7

## 古記録と日記〔上・下〕

山中裕編

日記という大きな見地から平安朝の古記録と日記文学の本質を明らかにする。挿入図版60余点。

▶ 上巻 A5判・252頁／定価3,045円 ISBN4-7842-0752-X

下巻 A5判・266頁／定価3,045円 ISBN4-7842-0753-8

## 源氏物語の地理

角田文衛・加納重文編

これまで等閑視されてきた『源氏物語』の地理的考察において創始的な意義を持つ研究論文を集成し、作品中に形象した地理的世界の把握を目指すアンソロジー。

▶ A5判・436頁／定価6,510円 ISBN4-7842-1010-5

## 『親信卿記』の研究

佐藤宗諱先生退官記念論文集刊行会編

蔵人の年中行事に関わる一級史料『親信卿記』から四方拝・供立春水など80項目余の記事を抽出・分離し、他本との校訂や内容の研究にとりくんだ一書。関係補論6篇のほか古代史の個別論考4篇も収録。

▶ A5判・600頁／定価10,290円

ISBN4-7842-1252-3

## 三条西公条源氏物語細流抄

安藤徹責任編集

龍谷大学善本叢書25

三条西源氏学の歴史や『源氏物語』註釈史を考察する上で欠くことのできない貴重な資料。影印と全文翻刻を収載し、解説のほか『細流抄』『明星抄』との見出し項目対照表を付す。

▶ B5判・706頁／定価29,400円 ISBN4-7842-1234-5

# 瀬戸内海地域社会と織田権力 【最新刊】

橋詰 茂 著

思文閣史学叢書

特産物の塩、周辺物資の海上輸送、在地権力の動向、海賊衆や真宗勢力の台頭、制海権をめぐる抗争など、瀬戸内海・四国をとりまく実態を明かす。

▶A5判・390頁／定価7,560円

ISBN978-4-7842-1333-7

## 序 論 課題と方法

### 第1編 瀬戸内海社会の形成と展開

- 第1章 瀬戸内における塩の生産
- 第2章 瀬戸内水運と内海産業
- 第3章 地域の社会階層
- 第4章 四国真宗教団の成立と発展

### 第2編 瀬戸内海社会の発展と地域権力

- 第1章 在地権力の港津支配
- 第2章 香川氏の発展と国人の動向

### 第3章 海賊衆の存在と転換

### 第4章 瀬戸内を巡る地域権力の抗争

### 第3編 地域権力と織田権力の抗争

- 第1章 石山戦争と讃岐真宗寺院
- 第2章 寺内町勢力との対決
- 第3章 寺内町の構造
- 第4章 織田権力の瀬戸内海制海権掌握
- 第5章 織豊政権の塩飽支配
- 第6章 戦国期地域権力の終焉

はしづめ・しげる…1949年香川県生まれ。駒澤大学大学院人文科学研究科博士課程日本史学専攻満期退学。現在、香川西高等学校教諭・瀬戸内短期大学非常勤講師。博士(日本史学)。

## 戦国大名の外交と都市・流通

豊後大友氏と東アジア世界 思文閣史学叢書

鹿毛敏夫 著

西日本の戦国大名のアジア外交の実態・意識構造と、都市・流通政策の実態を明らかにする。

▶A5判・300頁／定価5,775円

ISBN4-7842-1286-8

## 戦国期関東公方の研究

阿部能久 著

思文閣史学叢書

公方発給文書の様式変化にみる権力構造の事象、寺社勢力との関係、喜連川家の幕藩体制下の位置などを探る。

▶A5判・320頁／定価5,985円

ISBN4-7842-1285-X

## 公家と武家Ⅲ 王権と儀礼の比較文明的考察

笠谷和比古 編

国際日本文化研究センターで行われている、公家(貴族)と武家に焦点を合わせた共同研究のシリーズ第3弾。今回は王権と儀礼に注目する。全17篇 [内容] I日本[古代と中世]4篇/II日本[近世]6篇/III東アジア4篇/IV中東・西欧3篇

▶A5判・440頁／定価8,190円

ISBN4-7842-1322-8



## 近世社会と百姓成立ひゃくしょうなりたち—構造論的研究—

渡邊忠司 著

佛教大学研究叢書1 **最新刊**

近世社会において零細な高持百姓はいかにして自らの生活や農耕の日常を凌いでいたのか、経営の自立と再生産を可能としていた「条件」は何であったのか。近世社会における「百姓成立」について、領主権力による「成立」構造を再検証し、百姓の観点から百姓自らが創出した「成立」の条件と構造を村内の組織成と質入の検討により解明。わたなべ・ただし…佛教大学文学部教授

▶A5判・330頁／定価6,825円

ISBN978-4-7842-1340-5

## 相国寺史料 [全10巻・別巻1]

相国寺史料編纂委員会編／藤岡大拙・秋宗康子校訂

足利家の菩提寺として創建、五山の第二位に叙され、明貿易の交渉にもあつた相国寺。

本史料集は「相国考記」(永徳2年～慶長14年)と小島鼎師が本山及び塔頭所蔵の文書・史料から抄録・編纂した「相国寺史料」全40冊(慶長10年～慶応3年)よりなり、小島師の「万年山聯芳録」を附載した。

禅宗史のみならず、相国寺をめぐる政治・文化・美術・茶道・建築を明かす寺史である。



▶A5判・平均550頁／定価(揃)164,850円

## 隔莫記 総索引

『隔莫記』研究会編

全6巻のデータベースをもとに、原文表記に準じつつ『隔莫記』の内容に対応しうる詳細な索引。人名(8000)・事項(8800)・寺社名(550)・地名(500)の4分類に分けて編集。

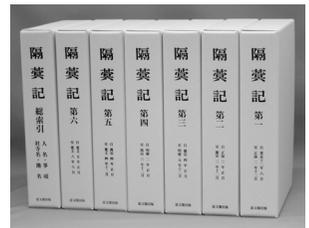
▶A5判・760頁／定価14,700円

ISBN4-7842-1312-0

## 隔莫記 全7巻 [本篇6巻・総索引1巻]

赤松俊秀校訂

近世文化揺籃期の社会相を知る最重要史料として多くの研究分野で利用されてきた、金閣鹿苑寺住持鳳林承章自筆の日記『隔莫記』。総索引の刊行を機に全7巻セットで復刊。



▶A5判・総5,130頁／定価(揃)73,500円

ISBN4-7842-1311-2

## 伊藤若冲と『相国寺史料』

村田隆志

相国寺承天閣美術館学芸員

日本美術史を彩った歴代の画家たちは数多く、その人数たるや星の数にも例えられよう。彼ら、彼女らの作品もそれぞれに輝きを放ってまさしく綺羅星の如く、満天の星空を観測する愛好家、蒐集家、美術史家などの面々の楽しみや尽きず……とりたいところであるが、その輝きを変わることなく、安定して放ち続けることができる画家というのは決して多くない。生前には輝いても、没してから年月を重ねることによってすっかりその輝きは薄らいで、誰にも観察されなくなって夜空に虚しく瞬くのみ……という画家のほうがはるかに多いのである。「昔は評価が高かったけど、今はすっかり……」という言葉を以って語られる画家のいかに多いことか。

ところが、一時期はいささか輝きが薄らいだものの、数人の具現者の観測によって存在が再認識されるようになり、近年俄然光量を取り戻して他の星々を押し、極めて多くの観測者の熱視線を集める稀有な星がある。江戸中期の画家、伊藤若冲である。

伊藤若冲は正徳6年(1716)に京都、錦小路の青物問屋「栢源」に生まれた。しかし本業には全く適性を示さず、いつの頃からかひたすらに画事に専念、のちには禪に帰依して居士号を得るほどに精進を重ねて作品に深みを加え、ついに独特の画風を打ち立てた人である。画家としてのスタートこそ30代半ばと遅かったが、85歳という高齢で没するまで精力的に制作を続けたことから現存する作品は数多く、中でも鮮麗な色彩で細緻に様々な動植物を描き上げた30幅に及ぶ大作「動植綵絵」(宮内庁三の丸尚蔵館蔵)や、水墨で5室、50面もの障壁画を巧みに構成した「鹿苑寺大書院障壁画」(鹿苑寺所蔵、相国寺承天閣美術館収蔵)などはつとに名高い。

しかしながら、若冲の生涯を詳しく知るに足る史料は意外なほど少ない。同時代の画家を例に取れば、池大雅や円山応挙などは文人墨客や後援者との交流が広がったことや、弟子が多かったなどの理由から伝えられた情報が多いが、若冲の交友範囲は限られていたために自筆の書簡類で確認されているのは1点のみ、弟子たちの活動の詳細も現時点では不明瞭、さらには遺族の家に伝え残されていた画稿などが明治時代に焼失……という悪条件が重なったこともあって、その人生や、画業に関する情報を知ることはなかなか難しいといわざるを得ない。

このような状況下、若冲を知る上で欠かすことができないのが、若冲の親友で、精神的な支柱でもあった傑僧、梅莊顕常こと大典禪師が第113世の住持を務めた寺、相国寺に伝えられた史料である。

相国寺は室町時代に足利義満によって創建された京都五山第2位の古刹である。師、夢窓疎石を勧請開山として迎えた二世の春屋妙葩以来、歴代の住持が漢籍詩文に通暁し、五山文学の文字通り絵本山でもあった相国寺は、同時に周文や雪舟らの美術史に名を留める巨匠を育んだ京の文化の中心地であり、その気風は足利將軍家の庇護を失って寺勢がいささか衰えた近世にあってもなお濃厚であった。中でも第113世の住持を務めた大典は当時の京都における最高の知識人であり、その学識を愛して売茶翁高遊外や池大雅ら、多くの文人墨客が相国寺に集った。そして、若冲もまたその中の一人に数えられる。

若冲と大典の交友は極めて深く、そもそも「若冲」という号そのものが大典の命名になるとさえ言われている。学問を苦手とし、なおかつ絵もほとんど独学であった若冲に、大典はその教養を存分に活かして方向性を指し示し、また相国寺に伝わっていた古画などを見せて制作の参考に供した。大典の導きによって、若冲は大成し得たとさえ言えるだろう。

この結果、明和2年(1765)9月晦日に若冲は壮年期のおよそ10年間を費やして描き上げた作



伊藤若冲筆 釈迦如来像(相国寺蔵)

品を相国寺に寄進し、亡き両親と弟、そして自らの永代供養を願った。この作品こそが「釈迦三尊像」そしてそれを荘厳するための30幅に及ぶ大作にして、若冲の畢生の傑作「動植綵絵」である。

当時の相国寺の公的な記録である『参暇寮日記』明和3年4月19日条には、マクリの状態で寄進された「動植綵絵」が表装され、初めて飾られた記念的な日が以下のように記されている。

函丈室間之飾

文殊	燭	三具足
釈尊	大卓 香炉 中央 供台ノ上 尊天卓	神酒一對
普賢	華	前立之本尊也 洗米 同

但室中左右若冲筆花鳥十二幅挂之(後略)

この記述のほかにも、若冲に関する記述は相国寺の史料の中に散見されるが、これらの記述のほとんどを採録しているのが『相国寺史稿』である。豊臣秀頼による法堂再建が成された慶長10年(1605)から慶応3年(1867)に及ぶ270年近くの相国寺の近世について、戦前の相国寺における随一の学僧、小島文鼎(1870~1945)が各種の史料を渉猟

して編んだ、大部の史料集であるこの書物は、幸いにして『相国寺史料』全10巻、別巻1巻として公刊されており、閲読に便があると言いうる。しかしながら、近年の若冲人気の高まりに比例して次々と発表されている彼についての研究に、本書の内容を反映したものの極めて少ないことは惜まれる。このため、本年5月13日から6月3日まで相国寺承天閣美術館にて開催される「若冲展「釈迦三尊像」と「動植綵絵」120年ぶりの再会」においては、本書を活用し、その内容を大いに反映して展示を構成した。

承天閣美術館は相国寺創建600年記念事業の一環として建立され、当初からの「いつの日か、明治22年に皇室へ献納した「動植綵絵」の里帰り展を」との悲願をこのたび遂に果すこととなる。本書の刊行事業もまた、創建600年記念事業という環に連なるものであったが、本書がもしも存在しなかったとするならば本展が大きくその姿を変えていたことは必定であり、この奇縁を契機として、若冲の画業だけではなく、本書の高い資料的価値もまた再認識されることになれば幸いである。

また、最後に付言しておきたい。本書に収載された各種の史料に登場する画家はひとり若冲到留まらない上、当時の什宝の取り扱いや、その鑑賞の有り様についても極めて豊富な記述を有している。また、当然ながら近世の禅林の日常や、当時の世相についての記述なども豊富であり、ほかにも朝鮮通信使の接遇を担当した「碩学」を輩出した寺ならではの記録などの収載も特筆される。本書は満天の星々の観測にのみ役立つ天体望遠鏡だけとしてだけでなく、それぞれの興味関心に応じて天眼鏡としても、眼鏡としても用いる事ができる性能を秘めているのである。

—MEMO—

相国寺じょうてんかく承天閣美術館

〒602-0898 京都市上京区今出川通烏丸東入  
tel 075-241-0423 <http://www.shokoku-ji.or.jp>

若冲展 「釈迦三尊像」と「動植綵絵」120年ぶりの再会

5月13日(日)～6月3日(日)

開館時間／午前10時～午後5時

さんみゃくいん このえ のぶただ

## 三藐院 近衛信尹 残された手紙から

前田多美子著

本阿弥光悦・松花堂昭乗とともに「寛永の三筆」として日本書道史上にその名を謳われてきた近衛信尹。本書では信尹の生涯を彼の残した手紙から読み解き、隠れた素顔を明らかにし、さらに能書としていかに遇されてきたのか、その書とはどのようなものであったのかを改めて考えなおす。

▶A5判・270頁／定価2,415円 ISBN4-7842-1299-X

## 没後220年 蕪村

逸翁美術館・柿衛文庫編

南画・俳画・嫁入手・扇面・草稿・短冊・俳書・書簡など、新出作品もふくめ全176点を解説を付してカラーで収録。書簡については巻末に翻刻・解説を併載。

▶A4判・210頁／定価2,310円 ISBN4-7842-1162-4

## 中国文人画家の近代

西楨 偉 著

豊子愷の西洋美術受容と日本

「中国」「日本」「西洋」という三つの視点を設けることにより、豊子愷が日本を通して西洋美術を受容したことの意義を問うと同時に、豊子愷の本質に迫り、20世紀日中交流の軌跡を検証。

▶A5判・384頁／定価5,775円 ISBN4-7842-1230-2

## 柳宗悦と民藝運動

熊倉功夫・吉田憲司共編

柳宗悦の思想と仕事について、各世代の研究者が自由に問題意識を持ち、それぞれの視点・立場から柳宗悦像を論じる14篇。国立民族学博物館で行われた共同研究の成果。

▶A5判・360頁／定価4,830円 ISBN4-7842-1236-1

## アーツ・アンド・クラフツと日本

デザイン史フォーラム編

アーツ・アンド・クラフツ運動と日本との関わりをさまざまな視点から論じ、デザイン・工芸・美術・社会・産業・環境・生活などの立体的な関係を考察する一助とする。

▶A5判・304頁／定価3,045円 ISBN4-7842-1207-8

## ジャポニスム入門

ジャポニスム学会編

本書はこれまであまり紹介されなかった地域も含め各国別の個性的な展開をやさしく読み解き、さらに建築、音楽、写真、モードという絵画・工芸以外の分野におけるジャポニスムをも射程に入れ、ジャポニスムの全体像に迫ろうとする一書。

▶A5判・288頁／定価2,940円 ISBN4-7842-1053-9

## 民俗文化複合体論

芳井敬郎著

第24回江馬賞（日本風俗史学会）

民俗文化を生活の諸相の複合体と捉え、庶民層から貴族層までを対象とした多ジャンルの個別研究を総合し、その根底にある日本民族の民族性を抽出する。

▶A5判・470頁／定価6,930円 ISBN4-7842-1237-X

## 尾 陽

徳川美術館論集

徳川美術館編

従来『金鯢叢書』の一部として収録されていた美術関係の部分に新収蔵品紹介や修理報告などを収め、別本として年1回刊行。

▶第1号 B5判・120頁／定価3,150円 ISBN4-7842-1222-1  
第2号 B5判・232頁／定価3,150円 ISBN4-7842-1240-X  
第3号 B5判・184頁／定価3,150円 ISBN4-7842-1331-7

## 与謝蕪村筆「奥の細道画卷」

岡田彰子解説

蕪村が敬愛する松尾芭蕉の『奥の細道』の全文を書写し、13点の挿画を添えた自筆画卷の完全複製（1巻）。

▶卷子仕立・桐箱入・FMスクリーン印刷  
／定価136,500円 ISBN4-7842-1118-7

## 民芸運動と地域文化

濱田琢司著

民陶産地の文化地理学

大正後期に創始した民芸運動という工芸をめぐる文化運動と三つのやきもの産地との影響関係を主な事例にそって考察。

▶A5判・320頁／定価5,145円 ISBN4-7842-1288-4

## 北太平洋の先住民交易と工芸

大塚和義編

北太平洋の諸地域をつなぐ先住民の交易ルートの実態を明かし、あわせて文化遺産としての工芸芸術を紹介する大型ビジュアル本。カラー図版150点余を収録。

▶A4判・150頁／定価2,940円 ISBN4-7842-1087-3

## 国際デザイン史

日本の意匠と東西交流

デザイン史における日本と西洋諸国との交流を探る56篇を収める。巻末に生没年・原綴を付した人名索引を収録。挿図約180点掲載。

▶A5判・304頁／定価3,045円 ISBN4-7842-1079-2

## ドイツにおける〈日本=像〉

ユーゲントシュティールからバウハウスまでクラウディア・デランク著／水藤龍彦・池田祐子訳  
従来のジャポニスム研究を踏まえながら、ドイツの美術・デザイン・建築と日本美術との関係、ひいては横断的な日本=像の変遷を提示する。

▶A5判・312頁／定価3,990円 ISBN4-7842-1194-2

## 花洛のモード

きものの時代

京都国立博物館編

「きもの」に焦点をあて、小袖・打掛・羽織からカンザシ・髪型、さらに肖像画・屏風などに描かれたモードもふくめ、全225点をカラーで収録。

▶A4判・550頁／定価26,250円 ISBN4-7842-1072-5

# アートに学ぶ 作家たちがめぐる心の冒険

柴辻政彦著 (1935年生まれ、美術評論家、美術工芸研究所主宰)

【最新刊】

美術作家の独自技術に着目し特異性を浮き彫りにしていく評論集。第1章では村上隆の『芸術起業論』をとりあげ、第2章では8人の現代美術家を題材に、その独自性を作家の生い立ちなどから探る「作家たちがめぐる心の冒険」の記録。 図版：カラー24点・モノクロ53点

△▼△内容目次△▼△

- 第1章 村上隆の『芸術起業論』の痛快
- 第2章 作家たちがめぐる心の冒険
- 陶芸 伊東 慶 —「白磁」による造形と彩色の可能性を探る—
- 建築家 遠藤 秀平 —大阪城公園に出現した「鋼鉄性能」で表現する三つの建築造形—
- 画家 郭 徳俊 —不条理の告発をフィールドにした韓国の美術家—
- 陶芸 小嶋千鶴子 —鳩壽(90歳)・小嶋千鶴子さんの陶芸の魅力—
- ガラス 坂田 基内 —陶かガラスか、常識破りの現代美術の開拓者—
- 陶芸 松本ヒデオ —『表層』から『疑似深層』へ移った陶の造形—
- 陶芸 森 正 —『女のカンザシ』から『陶彫の仏像』へ—
- 彫刻家 吉田 和央 —「表皮は内質に帰順する」という鉄の彫刻—

▶A5判・244頁／定価2,520円



ISBN4-7842-1332-5

## 木村重信著作集 [全8巻]

木村重信著  
アフリカ・アジア・オセアニアなど世界各地のフィールドワークにもとづく多彩な民族芸術論はもとより、現代美術論・現代文明論など主要な学術的成果をおさめた著者自選の論文集。適宜挿入図版を収め、各巻に索引と一線の研究者による解説を併載。

▶A5判・平均500頁／定価(揃)78,750円

## 河北倫明美術時評集 [全5巻]

河北倫明著  
美術界の最前線を歩んできた美術評論家、河北倫明氏による戦後美術史の決定版。美術評論やエッセイなど、昭和22年から平成3年にかけて執筆されたものの集大成である。各分野ごとに分類、執筆年代順に配列されているため、大変意義深い戦後の美術年譜となっている。

▶A5判・平均500頁／定価(揃)37,170円

書評・紹介一覧 9～12月掲載分		※(評)…書評(紹)…紹介(記)…記事〔敬称略〕
増補 蓮月尼全集 (紹)中外日報26960号 12/12	近世後期瀬戸内塩業史の研究 (評)地方史研究323号(56巻5号)10/1(桑原功一)	
岩倉使節団における宗教問題 (紹)米欧亜回覧(米欧亜回覧の会)44号 9/20	東大医学部初代総理池田謙斎 (評)日本医学雑誌52巻3号 9/20(岩崎鐵志)	
茶道と恋の關係史 (紹)中外日報26928号 9/23 (紹)淡交2006年11月号 (評)茶の湯(茶の湯同好会)393号 11/1	民芸運動と地域文化 (評)歴史地理学230号 9/20(湯澤規子)	
上賀茂のもり・やしろ・まつり (紹)神道フォーラムVol.2-5(通巻11号) 9/15 (紹)日本歴史702号 11/1	ひとりは大切 (評)同志社時報122号 10/1(梅津實)	
近世儒者の思想挑戦 (紹)読売新聞12/24読書面(竹内洋「2006年読書委員の3冊」)	延慶本「平家物語」の説話と学問 (評)日本歴史702号 11/1(牧野淳司)	
三藐院 近衛信尹 (紹)目の眼 9月号	異文化・交流のはざままで (評)同志社時報122号 10/1(宮澤正典)	
昭和初期 一移民の手紙による生活史 (評)日本医学雑誌52巻4号 12/20(鈴木晃仁)	古代神祇信仰と仏教 (評)日本歴史702号 11/1(前田晴人)	
十九世紀日本の園芸文化 (評)悠斎研究会だよりNo.10 11/1(遠藤正治)	「親信卿記」の研究 (評)日本歴史702号 11/1(山本信吉) (評)日本史研究532号 12/20(告井幸男)	
俊頼龍腦の研究 (評)日本文学55巻12号(日本文学協会)12/10(錦仁)	絵葉書で辿る日本近代医学史 (評)日本医学雑誌52巻3号 9/20(西巻明彦)	
	紀伊古代史研究 (評)日本史研究531号 11/20(笹川尚紀)	

『鴨東通信』63号史料探訪⑥訂正箇所のご案内

- 16頁下から2行目 「中ハ錦」→「中ハ綿」
- 17頁〔釈文〕2行目 「拾二月二十一日」→「拾二月廿一日」
- 同17行目 「食事」→「食時」
- 同18行目 「被罷」→「被召出」

- 同23行目 「中ハ錦」→「中ハ綿」
- 同25行目 「様御運上」→「様江運上」
- 同26行目 「霽」→「宵」

# 思文閣出版古書部

『思文閣古書資料目録』第200号記念特別号

- \* 古典籍を中心に古文書・古写経・絵巻物・古地図・錦絵など  
総点数375点、152ページ
- \* 巻頭カラー39点、40ページ
- \* 巻末カラー特集「藤井永観文庫の名品」34点、20ページ



往生要集絵抄

ご希望の方は古書部までお問い合わせください。

〒605-0089 京都市東山区古門前通大和路東入元町357  
TEL 075-752-0005(代) FAX 075-525-7155  
e-mail kosho@shibunkaku.co.jp

## 思文閣美術館ご案内

愛でたきもの

### 雛とミニチュアのお道具展Ⅱ

2007 2/24(土)～4/3(火) 10:00～17:00 月曜休館



各種講義会（雛祭りフラワー  
アレンジメント・ミニチュアお  
ひなさまづくり・ブローチづく  
り）開催致します。詳細は、  
下記へお問い合わせ下さい。

雛の節句にちなみ、豆雛と雛道具を中心に、繊巧なミニチュアの品々約800点余りを一堂に展示します。2003年に当館で開催いたしました「雛とミニチュアのお道具展」に新たな展示品を加えて、ご紹介。“掌中のたからもの”ミニチュアの魅力をぜひご堪能ください。

■入館料 一般700円(550) 高大生500円(400)  
小中生300円(200) ※( )内は前売り/団体料金

### お問合せ

〒606-8203 京都市左京区田中関田町2-7  
TEL 075-751-1777 FAX 075-762-6262  
<http://www.shibunkaku.co.jp/artm/>

### 9月から12月にかけて刊行した継続図書

シリーズ名	巻数	巻タイトル	ISBN4-7842	TRC	NPL	OPL	定価	発行月
佛科大学鷹陵文化叢書	15	権者の化現	1321-X C0314	06050872	0758140	07156391	2,415	9
東寺百合文書	4	口函(四)・ハ函(一)	1319-8 C3321	06055145	0759084	07219777	9,975	10
金鱈叢書	33		1326-0 C3370	06055076	0759155	07219801	9,975	10
公家と武家Ⅲ	3		1322-8 C3021	06059185	0768297		8,190	11
尾陽	3		1331-7 C1313	06062949	0769244	07374671	3,150	11
住友史料叢書	21	銅座方要用控 一	1329-5 C3321	07000717	0850104	07424732	9,975	12

### 9月から12月にかけて刊行した図書

図書名	著者名	ISBN4-7842	TRC	NPL	OPL	定価	発行月
岩倉使節団における宗教問題	山崎渾子	1316-3 C3021	06052112	0758339	07181167	3,990	10
増補 蓮月尼全集(2刷)	村上素道編	0182-3 C3092	87-65115	8105253	07194921	12,600	10
織豊期の茶会と政治	竹本千鶴	1318-X C3024	06054829	0759483	07241847	7,875	10
中世日本の政治と文化	森茂暁	1324-4 C3021	06056643	0759638		9,450	10
京都文化の伝播と地域社会	源城政好	1325-2 C3021	06057301	0767774	07292345	8,190	11
近代新潟におけるプロテスタント	本井康博	1320-1 C3016	06057320	0767794	07292352	3,150	11
眼科医家人名辞書	奥沢康正・園田真也共編	1327-9 C3047	06057343	0767597	07292261	4,200	11
文学に見る痘瘡	川村純一	1323-6 C3021	06060273	0768290	07344195	5,250	11
禮園小石先生叢話	正橋剛二	1330-9 C3047	06061664	0768573	07344187	4,200	11
アートの学ぶ	柴辻政彦	1332-5 C1070	07000716	0850023	07401607	2,520	12
朝鮮通信使の研究(2刷)	李元植	0863-1 C3021	97035856	9758178	97576409	15,750	12

(表示価格は税5%込)

#### ▶ていたいむ余録◀

「つくった苦勞を思えば捨てられない」先生のこの一言は私の心にズシリときました。便利なものを目指すがちになってしまう自分自身の行動を、改めて考えなおそうと思わずにいらませんでした。(も)

▶表紙図版◀「洞口 虎頭館藏 御讓位図式」(部分)  
(『公家と武家Ⅲ』より)

#### ▶営業部より—2006年刊行点数—◀

ご多分に漏れず弊社でも刊行点数が増加傾向にあり、書籍紹介などのスペースが増えた分、このコーナーを休むことが増えてきました。みなさまとお会いする機会が減るのは寂しいかぎりですが、その分たくさんの方がみなさまとの出会いをお待ちしております。(江)

刊行図書目録の最新版(2006年版)をご希望の方はお申しつけ下さい。

## 株式会社 思文閣出版

〒606-8203 京都市左京区田中関田町2-7 ☎075-751-1781(代) FAX.075-752-0723  
<http://www.shibunkaku.co.jp/> e-mail: pub@shibunkaku.co.jp